

中國出土資料學會
平成23年度大会（第3回例会）

日時：平成24年3月10日（土）
受付開始 12：30～
研究報告 13：00～17：00
会員総会 17：00～18：00

場所：東京大学文学部法文1号館113番教室
（東京都文京区本郷7-3-1）

会場へのアクセス：

- 地下鉄丸ノ内線・大江戸線・・・本郷三丁目駅下車徒歩8分
- 地下鉄南北線・・・東大前駅徒歩3分
- 地下鉄千代田線・・・根津駅徒歩10分

報告Ⅰ 柿沼 陽平（日本学術振興会特別研究員PD）

発表題目：孫呉貨幣経済の構造と特質

発表概要：報告者は拙著『中国古代貨幣経済史研究』（汲古書院、2011）等で秦漢貨幣経済の構造と特質について検討したが、漢代貨幣経済は後漢以降どうなったのか。報告者はすでに別途、三国時代の曹魏・蜀漢の貨幣経済に関する検討も行なったが、では残る孫呉はどうだったのか。本報告では走馬楼呉簡等を用い、曹魏・蜀漢が後漢とは異なる貨幣経済を展開したのに対し、じつは孫呉貨幣経済こそが漢代貨幣経済を最も原形の残る形で継受したとの仮説を検証する。

報告Ⅱ 下田 誠（東京学芸大学教育学部准教授）

発表題目：武霊王から恵文王へ—青銅兵器銘文から見た戦国趙の機構的改革の実践—

発表概要：戦国趙の武霊王は中山・匈奴など北方勢力とのせめぎあいの中で「胡服騎射」と呼ばれる改革をおこなった。その内容は服飾礼俗や戦術の改革、外交政策の転換など多岐にわたる。とはいえそうした外部との関係や軍事的成果とは裏腹に、国内の政治制度や運用に目を向けると韓や魏、そして秦に遅れるところがあった。次の恵文王は武霊王の残した「宿題」にどのように取り組んだのか。青銅兵器銘文を主たる資料に官僚制的機構改革の実践を読み解く。

報告Ⅲ 谷中 信一（日本女子大学教授）

発表題目：『老子』經典化プロセス素描—郭店『老子』から北大簡『老子』まで—

発表概要：『老子』そのものは僅か五千言程度の分量であるにもかかわらず、『老子』について考察された論文は内外古今を問わずそれを遙かに超える膨大な量にのぼる。だが、それらは専ら傳世文獻に基づいて考察されたものが大部分であり、1973年出土の馬王堆帛書『老子』・1993年出土の郭店楚簡『老子』、更には本年公刊が待たれる北京大学所蔵漢簡『老子』などの出土文獻を用いての新たな『老子』研究が待たれるのである。

特に最新の北大漢簡『老子』には「老子上經」「老子下經」のように「經」字がはっきりと記されていることが注目された。（なお、馬王堆帛書『老子』では「徳」「道」とあるのみで、「經」字はなかった。）

更に、『老子』研究にとって強力な援軍とも言うべき出土資料として、上博楚簡『恆先』や『凡物流形』などがあり、『老子』研究は新たな全く局面を迎えていると言ってよい。

この度は、これまで発表してきた諸論考に新知見を加えて、『老子』經典化プロセスを、素描してみたい。

☆参加費(資料代) 500円

☆非会員の来聴を歓迎します

☆大会終了の後、懇親会を行う予定です。ふるってご参加ください。

連絡先

〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学文学部

中国語中国文学研究室 大西研究室

Tel 03-5841-3822 (直通)

Fax 03-5841-3823

E-mail : syutsudo@l.u-tokyo.ac.jp

郵便振替口座 00180-5-13124

